

第27回市町村対抗 福島県縦断駅伝競走大会



酒井 透さん

国見町チーム監督

昨年度の大会では、目標であった敢闘賞を受賞することができましたので、今年度は「総合20位台」「町の部入賞」を目指して、白河から福島までチーム一丸となって襷をつないで参りたいと思います。次代を担う中・高校生の活躍をご期待いただき、みなさまの温かいご声援をお願いいたします。

11月15日
午前7時40分スタート!

	氏名	所属
監督	酒井 透	一般
コーチ	高橋 豊光	一般
コーチ	中野 貴大	一般
1区	高橋 香澄	高1
2区	松浦 貴昭	高3
3区	佐藤悠貴也	中2
4区	鈴木 悠	高1
5区	高橋 篤輝	高1
6区	大槻 航	高1
7区	齋藤 翔	中3
8区	山崎 達也	中2
9区	佐藤 雪音	中3
10区	鈴木 晴馬	高2
11区	穴戸樹里直	高2
12区	桐澤 楓	高2
13区	佐藤 淳哉	中3
14区	佐藤 凌	中3
15区	渡邊 ゆき	中3
16区	山田 哲也	一般
補欠	佐藤 温史	一般
補欠	後藤 仁志	一般
補欠	中野 貴大	一般
補欠	佐藤 玲温	中3
補欠	梅谷 思保	一般
補欠	鈴木ほのか	中1

文化の力で魅力あふれる町に 第44回国見町文化祭



町文化祭の音楽芸能発表が10月4日、観月台文化センター体育館で開催され、文化団体加盟の21団体、延べ213名が出演しました。合唱、舞踊、カラオケなどの様々なジャンルで構成されたプログラムは83演目にもわたり、出演者は日頃の練習の成果を発表。プロ顔負けの舞台に観客も大盛り上がりでした。

10月30日から11月1日にかけて、観月台文化センターで総合展示会が開催されました。文化団体加盟の13団体による作品展示のほか、幼稚園、小中学校の作品や各種団体、コンテスト作品などが体育館に所狭しと並び、多くの観客の目を楽ませました。

少年仲間づくり教室 「稲刈り体験」



少年仲間づくり教室の「稲刈り体験教室」が10月3日、小坂アグリ株式会社（朽木勝之社長）の田んぼで行われ、教室生35名が稲刈りを体験しました。

大半の児童は、初めての稲刈りで、小坂アグリ、伊達農業普及所、JA伊達みらい職員らの指導を受けながら、稲刈りを行いました。

はじめは危なっかしい手つきで鎌を使っていた子どもたちでしたが、あっという間に稲刈りのコツを覚え、稲を刈り取っていました。

稲刈り体験の後は、炊き立ての「天のつぶ」と豚汁が用意され、ご飯を何度もおかわりする子どももいました。

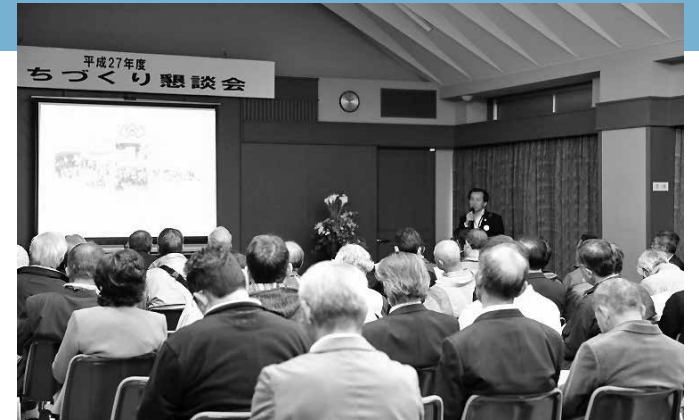
震災からの 「復旧・復興とまちづくり」をみんなで共有した時間

平成27年度 まちづくり懇談会

今年のまちづくり懇談会は10月25日、テーマを「震災からの復旧・復興とまちづくり」とし、昨年に続き会場を観月台文化センターの1カ所で開催しました。

懇談会では、国見町のこれまでの歩みを振り返るビデオの上映、太田久雄町長より町の復旧・復興状況とまちづくりについての説明と町の除染の実施状況を中心とした資料の説明があり、参加したみなさんとの懇談を行いました。

懇談会での主な内容は、次のとおりです。



Q 国見町に住んでいる外国人の方が活躍できる場や子どもたちが世界に羽ばたけるよう、国際交流の面について、町としてどう取り組むか。

A 現在は、震災からの復旧・復興を中心としたまちづくりに取り組んでいきます。国際交流は、重要なことであるということ意識して対応していきます。

Q 20代から30代の若い世代が、今後国見町に住み、町を復興しようという意識があるか不安なところがある。

A 若者に国見町の魅力を感じてもらえるよう、復旧・復興・元気活力事業を行い、積極的に報道やインターネットを通じて目に見えるものとして伝えるようにしています。町の復旧・復興など町の状況を若者に伝え、当事者としての意識を持つ

てもらおうことでうまくいくと考えています。

Q 国見町の産業は、農業が基本であるが、米や果樹で復興できるか、取り組む若者がいるかという問題がある中で、私たちは何をしたらよいか。

A 農業については、大変な状況であると感じています。起爆剤として、道の駅整備があり、道の駅を利用して、農産物に付加価値を付けていくことを考えています。また、青年農業者を農産物の販売PRと一緒に参加してもらい、若者が農業に精通していく仕組みづくりを行っています。

Q 体育協会や文化団体連絡協議会において、会員が高齢化し脱退することで、活動団体が消滅してしまう状況がある。寿クラブにおいても、高齢者が増えているのに会員が



増えない。各種の団体活動は、コミュニティづくりにとって重要なので、会員増強などに町の支援をお願いしたい。

A 各種団体の活動が、コミュニティや町全体の盛り上げになります。また高齢者にとっては、自分の居場所にもなります。組織の強化については、重要なこととして町や社会福祉協議会としても対応していきます。